



ご挨拶

自治医科大学看護学部
学部長・大学院看護学研究科長
水戸 美津子

本年4月から看護学部長並びに大学院看護学研究科長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。
看護学部は、今年3月に第1回卒業生105名を初めて輩出いたしました。国家試験の合格率は看護師97.9%（全国平均88.3%）、助産師100%（全国平均98.1%）、保健師81.9%（全国平均78.7%）と、いずれも全国平均を大きく上回り良好な成績を修めることができました。これは、学生の皆様の努力はもとより教職員、その他多くの方々のご支援の賜物と感謝申し上げます。また、残念ながら不合格となった卒業生には引き続き学部でフォローしていく所存です。

卒業生の多くが附属病院と大宮医療センターに就職いたしました。4月以降に病院内で出会う卒業生は、「先生、もう～大変です」と言いながらも生き生きとした感情が伝わってきて眩しい気さえいたしております。患者様のことを第一に考えられる、しなやかで、わきまえのある素敵なナースに育ててほしいと切に思っております。在学生も、実習等で卒業生に出会う機会も多くなるでしょう。卒業生にとっても、在学生にとっても励みとなる環境を創り上げていかなければならないと思っております。

また、この4月からは大学院看護学研究科が開設され、11名の大学院生が学び始めました。このうち8名の方が長期在学制度（3年）を活用して、週末と8・9月及び3月の集中講義形態の授業を受けることになっております。大学院生のために研修センター4階に講義室等も整備されました。学部生と大学院生との交流も始まり様々な面で刺激しあうという環境が整いつつあると感じております。数年後には学部の卒業生がこの大学院に入学し更なる高度専門職業人をめざしてくれることを期待しております。

学部在学生424名、大学院生11名合計435名の学生が伸び伸びと学習できるような環境を整えるためにさらにいっそう努力したいと思っております。



卒業式式典風景



第1期卒業生寄贈記念碑

新 入 生 の 近 況

看護学部1年 小田 晴香

自治医科大学に入学して早2ヶ月が経ちました。大学生活にもようやく慣れ、授業に部活に、毎日大忙しです。今、授業では、他の学生と意見交換をする機会が多くあり、高校での授業との違いをとて新鮮に思っています。自分と異なる意見とその考え方に、はっとさせられることがしばしばあるので、視野を広くすることを目標に、日々の勉強に励みたいのです。また、同じ目標を持って切磋琢磨できる仲間と、快く相談に乗って下さる先輩がいらっしゃる本学で学ぶ4年間を、とても楽しみにしています。

「地域の生活と健康」の授業で、実際に本学周辺にお住まいの高齢者の方と交流する機会がありました。お話を伺い、長い人生経験から自分なりに考えた健康法を実践している方が多い印象を受けました。しかし、「正しい知識と異なる点もあるのでは」と考える学生も少なくなく、地域に生活する人々に健康増進のための正しい知識を提供する、地域に根差した看護職の必要性を改めて感じました。

今後も深刻化していく高齢社会において、看護職へのニーズはますます高まり、看護職には、専門的知識や実践能力、的確な判断力が必要だと感じます。勉学と豊かな人間性を



入学式式典風景

育むことにウエートを置く今、本学の1年生として学べる限りの知識を会得し、入学式で感じた緊張感を忘れずに、一日一日を頑張っていきたいと思います。

看護学部編入生3年 高久 真季

編入して2ヶ月が経ち、だいぶ大学生活にも慣れ、毎日楽しく過ごしています。初めのうちは、短大や専門学校時代とは違う大学という環境に戸惑うこともありましたが、自分よりも若い学生たちとうまくやっていけるのか不安もありましたが、サークルやセミナーを通して友達の輪も広がり、充実した日々を送っています。私たち編入生は、それぞれ編入した目的は異なりますが、みな自分の意志でこの道を選びました。たとえ年齢がばらばらでも、自分の看護観を深めようとしていることには変わりありません。医療従事者としてどう生きるのか、常にそのことを胸に、自分のこれからを考えています。そして今の自分に何ができるのか、何をやるべきなのか、自分と向きあいながら真剣に考えていると思います。あくまでもこの編入は、自分の看護者としての通過点であり、ゴールではありません。いかにこの2年間を自分のために活かすか、期待と同じくらい焦りがあるのも事実です。大学という自由な環境の中で、何を見出すかは自分次第です。看護学部長をはじめ、自治の先生方はそれぞれの専門分野を極め、熱心に活動なさっており、相談にも乗ってくださいます。この恵まれた環境の中で、自らが行動しなくてはもったいないと思います。与えられた環境に満足するのではなく、自分の意思をしっかりと主張し行動していきたいと考えています。看護は人と人とが触れ合う場だからこそ、自分自身の心、考え方、人間性が看護への姿勢となって現れます。看護者と

して豊かな人間性が求められているゆえに、日々の生活においても、人との関わりを大事にしていきたいと思います。看護はひとりで

成り立つものではないので、常に感謝する気持ちと、配慮する気持ちを忘れず、自分自身を磨いていきたいと思います。

各 学 年 の 近 況

1年を振り返って 新入生へ伝えたいこととエール

看護学部2年 庄司 愛

1年生の皆さん、入学から数ヶ月がたちましたがいかがお過ごしでしょうか？自治医大での生活にもだいぶ慣れてきたことと思います。私も、昨年、入学してからの数ヶ月間があっという間に過ぎてしまったことを覚えています。今回、1年生の皆さんに伝えたいことをここに書きたいと思います。

私が昨年1年間を過ごして実感したことは、「人を頼ること」がいかに必要かです。今までとは違い、大学生活では自分自身で選択・決定する機会が断然増えたように思いませんか？自由に自分の意見を反映できる分、自分自身にかかる責任も大きくなるし、たくさんの選択肢の中から選び出すのはとても大変なことです。しかし、最終的に選ぶのは自分自身ですが、私たちは良い選択をするために周りからアドバイスをもらうことができます。日ごろの生活についてはもちろんですが、授業について、テストについて、実習について、行事や部活動について、大学生活において人を頼るべきときはたくさんあります。同級生や先輩に話を聞くのはもちろんですが、他の大学の友人に話を聞いてみたりするのも面白いのではないかと思います。あま



り他人に頼りっぱなしは良くないかもしれないけれど、困ったとき、辛いとき、分からないときなど、ここぞというときにはむしろどんどん頼ってみるべきなのではないかと思います。決して恥ずかしいことではないし、それによってつながりが深くなっていくとも思います。

1年生の1年間はすごく濃い1年であったように思います。支えてくれる人たちはたくさんいます。これから楽しく充実した1年を送れることを願っています。

2年間を振り返って

看護学部3年 村木 綾佳

入学してから2年が過ぎ、いつの間にか私も3年生となっていました。入学してからの2年はとても早いものでした。この2年間を振り返ってみると、とても充実したものだったと思います。

2年間の中で一番心に残っていることは、やはり病棟実習です。2年間で、基礎看護学実習、基礎看護学実習、成人看護学実習と3回の病棟実習を行いました。一番初めの実習は、期待よりも不安の方がとても強かったことを覚えています。実習とはどのようなことをするのだろうか、患者さんとどのように関わったらいいのだろうかなど不安や疑問だらけでした。不安が強かった実習でしたが、看護師の方がどのような仕事をしているのか、どのようなケアを行っているのかなど病院とはどのようなところであるのかという基本的なことを学ぶことができました。2回目、3回目の実習では、本格的なケアを行わせていただきました。受け持たせていただいた患者さんにはどのような援助が必要であるのか、一番困っていることは何であるのかなどの患者さんのニードを理解した

上での援助が必要であるということ、その人に合った看護を提供していくことを学ぶことができました。実習では学ぶことも多いのですが、もっとこうしておけばよかった、もっと患者さんにしてあげられることがあったのではないかなどの後悔もありました。けれども、同じ後悔をしないために自分のことを振り返って次の実習や学習につなげるということが大切であるということが分かりました。

3年の前期は病棟実習がメインとなっています。この2年間で学んだことを活かして実習に励んでいきたいと思っています。



3年間を振り返って

看護学部4年 神原 久美子

1年生の基礎看護や一般教養から始まり、2年生で臨床に沿った授業や実習をし、3年生で多くの実習をして、今4年生になって主に保健師の勉強や卒業研究に取り組んでいます。今までの振り返ってみると「看護」について本当に様々な役割があると感じた場面を多く見てきました。病院、訪問看護、福祉施設、学校、産業、地域など看護が活躍している分野は広いのです。看護が社会に求められているということを感じました。

今までを通して考えたことは、看護とは「一日一日、そして一生勉強」ということです。看護では人と関わることが、一番大切です。日常で一番多いことです。日々、看護の対象者とその家族の状況は変わります。一番近い存在だからこそ私たちの行動が大きく影響することがあるのです。たとえ現状がうまくいっていてもそこに甘んじずに、さらにできることはないか、どうしたら対象者やその家族の力を引き出し、強くすることができるのかを考えることが日々大切なのだと思います。自分が関わることで少しでもそれが対象者とその家族にとって益となるのが喜びであり、やりがいであると思います。実際、私は最後に対象者とその家族に「学生に受け持ってもらえてよかった」と思ってもらえるよう実習に臨んでいました。これからもその気持ちは持ち続けていきたいと思っています。

また、看護の役割として、他の医療従事者や福祉関係者と連携する中での調整役であることがとても大事であることを加えておきたいと思っています。対象者や家族のよりよい生活のためには医療やサービスが必要であり、様々な職種関わります。それが適切にそれぞれ機能するように橋渡しとなることがとても大切なのです。

今年はいよいよ最終学年ということで、卒業研究や国家試験などやるべきことが多くあります。今までの学びを生かしながら、着実に一步一步進んでいきたいと思っています。



学生の自主的活動

自治会より

看護学部 自治会長 岡崎 匠

去年の11月に発足してから、自治会では様々な活動を行ってきています。今回は「ビタミンN」に掲載して頂くという大変に良い機会を与えて頂いたので、この場をお借りして看護学部の自治会がどのような経緯で発足し、現在ではどのような活動をしているのか紹介させて頂きたいと思います。

自治会発足の経緯をたどれば2年前に遡りますが、当時は看護学部には自治会が存在せず、当時4年生の先輩も含めた数名の有志で構成されたサポートチームという組織が自治会のような活動を行っておりました。サポートチームでは、学生が生活をしていて困ったことがあればその処理を行っていました。しかし、公認の組織ではないことや、コピー機の管理などの予算が絡む仕事が出来ないなどの理由から、自治会という認められた組織の必要性を訴え、自治会準備会を経て、現自治会の発足に至りました。

発足に至るまでは週に何度も集まり、様々な事を話し合いました。自治会が発足した後の方向性や、会則について、予算案についてなど、前例がないので手探りで話し合うことばかりで困惑する場面も少なくありませんでした。しかし、現在は卒業された先輩方も、卒業研究や国家試験の勉強の合間を縫って話し合いに参加してくださいましたし、現在の4年生のメンバーも、実習中にも関わらず話し合いに参加してくれました。こうした良き先輩や仲間の協力があったおかげで、自治会は発足出来たのだと思います。

現在は情報処理室の奥に自治会室を設置させて頂いたので、そこを活動の拠点としています。2週間に1回は昼休みに定例会という話し合いをもっていて、今は主に先輩が後輩の学習や生活をする上での良き相談役となるBig Brother Sister制度について検討をしています。定例会以外には、通年で学生サロンのコピー機の管理を

し、誰もが自由に使用出来るようにしています。その他の活動と言えば、2月には学生が自治会に何を求めているのかを調査する全学生対象のアンケートを実施しました。また、3月の記念すべき看護学部第一回卒業式には在学生の代表として参加させて頂き、送辞を読ませていただきました。4月には医学部と合同開催の自治会新入生歓迎コンパ、自治会オリエンテーションを行い、新入生との交流を図りました。

しかし、これだけの活動を行っているにも拘わらず、未だに看護学部の学生の間では自治会の存在の認知度は低く、学生の中で自治会がどのような活動をしているのか知らない者も少なくないのでとても残念です。今後は、皆が自治会の存在を知り、その必要性を理解出来る様に自治会の普及活動を行い、もっと自治会のことを理解してもらえればと思います。

学生寮自治会より

看護学部3年 青木 由貴子

校内の草木も青々と輝き始め、初夏の薫りを漂わせる季節になりました。看護学部1年生のみなさん、入学してから3ヶ月が経ち、学校生活、または寮生活には慣れましたか？

さて、寮自治会では、寮生が快適かつ安全に集団生活を送れることを目的に活動しています。寮自治会での主な活動内容は、3・4月の入寮支援、入寮オリエンテーションや5月の消火器訓練、防災訓練、4・10月の自治会役員選挙、5・11月の定期総会の企画・運営、寮内のコピー機や洗濯機等の施設管理、ラウンジ・集会室の整理整頓、寮生の健康状態把握があり、寮生がより快適かつ安全な生活が送れるようになるための意見箱としての役割もあります。

特に、寮内には約250名の方が生活しているため、意見箱としての役割は重要です。寮は集団生活の場のため、寮生の一人一人がマナーに注意し協力的な姿勢がなければ、みなさんにとって充実した生活は望めません。寮内も一つの社

会であるため、時には、隣人の部屋から響く音楽の重低音が気になったり、洗濯機や廊下の使用マナーの悪さが目についたりなど、寮生の集団生活の難しさを訴える声が寮自治会に届くこともあります。しかし、そのような状況をできるだけ早くとらえ、みなさんに周知することで、その問題を寮全体で共有し、大勢の寮生の協力や意見を仰いで解決していくことが、寮自治会

の活動内容として最も重要なことと私は考えています。

昨年まであったBig Brother Sister制度も新しく見直され、寮生同士の繋がりもまた新しく拡がっていくことが期待されますが、寮自治会はこれからもみなさんの生活に寄り添い、活動していってくれることと思います。

学友会サークル

運 動 部 (サークル名)				文 化 部 (サークル名)			
1	準硬式野球	15	空手道女	1	美術部	15	ピアサークル
2	バレーボール男	16	スキー	2	演劇部	16	ボランティアサークル
3	バレーボール女	17	硬式テニス男	3	合唱部	17	陶芸部
4	バスケット男	18	硬式テニス女	4	囲碁部		
5	バスケット女	19	卓球	5	茶道部		
6	ハンドボール	20	ソフトテニス男	6	軽音楽部		
7	バドミントン男	21	ソフトテニス女	7	管弦楽団		
8	バドミントン女	22	陸上競技	8	フォークソング部		
9	水泳	23	柔道	9	ピアノ同好会		
10	ラグビー	24	弓道	10	ダンス同好会		
11	サッカー	25	ボート	11	手話		
12	ワンダーフォーゲル	26	ゴルフ	12	国際医療文化研究会		
13	剣道	27	ランニング	13	シャローム会		
14	空手道男	28	少林寺拳法	14	光子力研究部		



サークルハウス



バーベキュー

各領域の研究室・教員紹介

*一般基礎*****

助教授 大塚 公一郎

一般基礎領域は、看護の対象となる人間を深く理解する基本的能力と豊かな教養を養うための科目を担当しています。

ピアカウンセリングや健康教育の指導者として活躍している高村寿子教授は、円滑な人間関係能力を養うことも目的とした「人間関係論」、人間の生活をジェンダーの視点からとらえ、性・セクシュアリティの意味の理解をめざす「ジェンダー論」、人間の成長発達や社会の発展に果たす教育の意義と役割、生涯教育の必要性などを学ぶ「教育と人間」、心身ともにこころ豊かな生活を送れるようにするための自己管理能力を身につけるための「健康論」「健康教育論」などの科目を担当しています。

医療情報学の専門家である渡邊亮一教授は、現代社会にとってますます重要性を増している情報とコミュニケーションに関わる科目を担当しています。「情報収集と表現法」「保健医療情報学演習」などの科目では、医療者にとって必須の教養となっているコンピューターを用いたプレゼンテーションや統計的処理の基礎的な理論やテクニックを学ぶことができます。

私、大塚は、「心理学入門」、「人間関係論」、「文化人類学入門」などの科目を担当していま

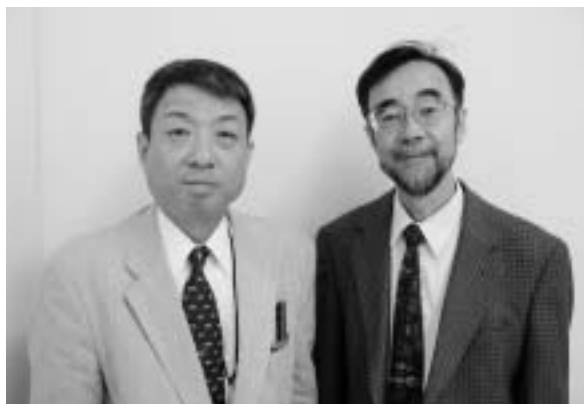
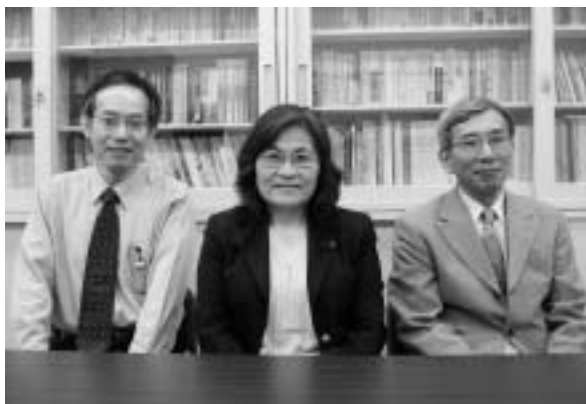
す。精神科医師としての臨床経験や精神病理学ないし異常心理学の立場から、人間と人間活動の様々な側面や多様な価値観について、学生の皆さんが自分で考えるきっかけになるような授業を提供したいと考えています。

*専門基礎*****

教授 竹田 俊明

この領域は看護の専門領域のような区切りとは違って、看護カリキュラムのなかで「からだ」や「疾病」、「公衆衛生、疫学」関連に関する科目をまとめたところとなっております。看護学、看護行為、看護研究の基礎学問という位置づけになります。カバー範囲は広いですが専任教員として教授2名で担当し、専門性の異なる科目については医学部の教員や外部の非常勤講師の先生に応援をお願いして十分な教育ができるように配慮しています。

早速ですが、専任教員の教授、竹田俊明と竹田津文俊を紹介していきます。竹田は神経生理学を専攻する基礎医学者で「人体の構造と機能」を主に担当しており、以前からの解剖生理学に当たります。高校を終えて入学してきた1年生に人体のしくみについて、やさしいところからかなりつつこんで講義します。またできるだけ演習の項目を盛り込んで、学生自ら計測し、結果を検討し参考書を調べてレポートを書き、学習を深められるようにしています。出欠カード(ミニクイズ)配布を



できるだけ行って、感想欄に自由に意見を書いてもらうことで、授業のフォロー度、学習意欲、講義への要望の把握に努めています。さらに、「わかりにくい」、「もっと説明してほしい」などの声にはいつでも質問に来てほしいと言っています。いまのところあまり多くありませんが、質問の中には本質をついたするどい質問、良いアイデアなどもあり楽しみです。

竹田津（たけたづ）教授は血液学を専門とする内科医で、「疾病と病態」を担当しています。社交的な人柄で人気があり、勉学以外にも学生が有意義に学園生活を全うするよういつも気を配っております。疾病の学習は大変範囲が広く、またその基礎知識も広く、多くが必要となります。そこを理解してもらって、学習意欲を高めてもらい、動機づけとなるような授業を心がけています。

*小児看護学*****

教授 川口 千鶴

小児看護学では、さまざまな健康状態にある子どもとその家族が、よりよく生活していくための看護を学びます。

小児看護学の科目は、1年後学期の小児看護学概論、2年後学期の小児臨床看護学、3年前学期には小児看護学実習が中心となっています。このほか、成長と発達、母性・小児保健論、家族生活援助論などでも小児看護学の視点での授業があります。そして卒業研究

で小児看護学を選択した学生はさらに小児看護学を深めることとなります。中心となる科目の学習内容について説明しましょう。小児看護学概論では、小児の健康の概念を理解し小児看護の意義と役割を考えるとともに、あらゆる健康レベルに働きかけるための方略について学びます。小児臨床看護学では、健康障害が子どもおよび親・家族へ及ぼす影響とその反応を理解し、さまざまな状況の中で個別的な看護を展開するための基礎的知識・技術を学習します。さらに小児看護学実習では、2年次までに学んだことを基礎に、子どもの生活を理解するとともにさまざまな健康レベルにある子どもへの看護を展開し、子どもを看護する上で必要な基礎的实践力を身につけます。

小児看護学領域の教員は、川口千鶴（教授）横山由美（講師）柴田美央（助手）池田真由美（助手）の4名です。新生児から学童・思春期、健康な子どもから障害を持つ子どもと、それぞれが興味を持つさまざまな角度から子どもを捉え、日々その子どもたちの看護について語り合っています。これまで、栃木県とくに下野市周辺の小児看護の課題について研究として取り組んできました。今年度は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターが開設されます。子ども医療センターと連携しながら、子どもたちがよりよく生活していくための看護を考えていきたいと思っています。



教 員 名 簿 （平成18年7月現在）

領 域	職 名	氏 名
学 部 長	教 授	水 戸 美津子
一 般 基 礎	教 授	高 村 寿 子 (1学年担当アドバイザー)
	教 授 助 教 授	渡 邊 亮 一 大 塚 公 一 郎
専 門 基 礎	教 授	竹 田 俊 明 (学生委員会委員長)
	教 授	竹 田 津 文 俊 (2学年担当アドバイザー)
基 礎 看 護 学	助 教 授	大 久 保 祐 子 (1学年担当アドバイザー)
	助 教 授	真 砂 涼 子 (3学年担当アドバイザー)
	講 師	里 光 やよい (2学年担当アドバイザー)
	助 手	川 上 勝
	助 手 助 手	角 田 こずえ 宇 城 令 峠 美恵子
地 域 看 護 学	教 授	篠 澤 侷 子 (学生委員会副委員長)
	教 授	春 山 早 苗 (教務委員会副委員長 4学年担当アドバイザー)
	講 師	鈴 木 久美子
	助 手	佐 藤 幸 子
	助 手 助 手	青 木 さぎ里 舟 迫 香 石 川 由 子
精 神 看 護 学	教 授	永 井 優 子
	助 教 授	半 澤 節 子
	助 手 助 手	田 中 京 子 佐 藤 勢 津 子
母 性 看 護 学	教 授	成 田 伸
	助 教 授	大 原 良 子
	講 師	黒 田 裕 子
	助 手 助 手	岡 本 美 香 子 石 井 貴 子
小 児 看 護 学	教 授	川 口 千 鶴 (教務委員会委員長)
	講 師	横 山 由 美
	助 手 助 手	柴 田 美 央 池 田 真 由 美
成 人 看 護 学	教 授	中 村 美 鈴 (3学年担当アドバイザー)
	助 教 授	水 野 照 美
	講 師	山 本 洋 子
	講 師	内 海 香 子
	講 師	清 水 玲 子
	助 手 助 手	村 上 礼 子 棚 橋 美 紀
老 年 看 護 学	教 授	水 戸 美津子
	助 教 授	高 木 初 子
	講 師	永 盛 るみ子
	講 師	亀 山 直 子 (4学年担当アドバイザー)
	助 手	池 田 浩 子

看護学部平成17年度卒業生(1期生)の動向

【国家試験結果】

	合格率	全国平均
看護師	97.9%	88.3%
保健師	81.9%	78.7%
助産師	100%	98.1%

【進路状況】

H18.3.31現在

就 職	自治医科大学附属病院	34名
	自治医大大宮医療センター	25名
	その他の保健医療機関	40名
進 学		1名
そ の 他		5名
合 計		105名



年間スケジュール

前学期

4月

4/7 入学式

4/10 授業開始（1年）

4/29～5/5 春季休業

5/14 大学創立記念日

7/4～7/7 定期試験（4年）

7/25～7/28 定期試験（1・2年）

7月

夏季休業

8/7～9/30

後学期

10月

10/2 授業開始

10/6～10/8 学園祭

12/25～1/3 冬季休業

1/26～1/31 定期試験（全学年）

3/9 卒業式

3/22～ 学年末休業

3月

編集後記

看護学部の開設から5年目を迎え、大学院看護学研究科もスタートしました。看護学部が益々発展していく中で、学生と教員の軌跡を記す意味でも、このビタミンNの役割は大きいのではないのでしょうか。本学の学生が、学年を追ってどのように学び、一步一步看護職への道を歩んでいるのか、今号の「各学年の近況」から伝わってくるように思われます。4年次生のひとりは、「学生に受け持ってもらえてよかったと思ってもらえるように実習に臨んだ」、「他の医療従事者や福祉関係者と連携する中で調整役になることが大切」と実習での学びを振り返っています。少子高齢社会と家族の変容は、人々の日々の暮らしに影響し、看護職が会う方々の抱える多様な困難に映し出されます。「ここであなたと出会えてよかった」と言って頂ける看護職になってほしいという願いは、教員だけでなく、きっと家族のみなさまも共通のものでしょう。4年間の学部生活での歩みを少しでもお伝えできるビタミンNであろうと、編集委員一同、努力していきたいと思っております。

（編集委員 半澤、清水、村上、岡本、石俊）

ビタミンN 第3号

発行日 平成18年7月
発行 自治医科大学看護学部
〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311-159
TEL 0285-58-7409